



慶應義塾大学

大学院健康マネジメント研究科

看護学専攻

公衆衛生・スポーツ健康科学専攻

Keio University

Graduate School of Health Management

Major in Nursing

Major in Public Health, Sport and Health Sciences

2021



～研究科委員長からのメッセージ～

あらゆる人々に健康をもたらし、 医療・ケアの質の向上を先導するために

健康マネジメント研究科の大きな強みは、「学際的教育の重視」、「実務と研究の融合の重視」、「実証的研究方法の重視」という3つの共通のポリシーに基づいて、5つの領域—看護、医療、ケア、スポーツ健康科学、そして公衆衛生—が同じ大学院の中で、専攻の枠組を越え、学問の領域を超えて活動をしていることです。

この5領域は、まさに今私たちが直面している、予期しえない健康課題を克服する努力の中から生まれ、社会での役割を果たしてきました。これらの課題を解決するためには、単に、その存在を明らかにし、解決策をたて、実行する力を身につけるに留まるのではなく、多様性を尊重して活発な議論を促しながら、意見や価値観の相克を乗り越え、現場を動かすことのできる力が求められるのであり、自分の中に壁を作らない自由な学びこそが大切です。

総合大学としての強みを活かした幅広い領域にわたる科目と指導教員の存在。医療系・非医療系の出身学部を問わない多様な学生の皆さんが学びやすい環境づくり。皆さんが学びやすいよう、多くの授業は、大学病院のある信濃町キャンパスで開講されています。このように、慶應義塾がもつ総合力を最大限に活かし、健康、医療、ケアの質の向上を先導する取り組みを続ける健康マネジメント研究科は、志ある皆さんをお待ちしています。



健康マネジメント研究科委員長
武林 亨

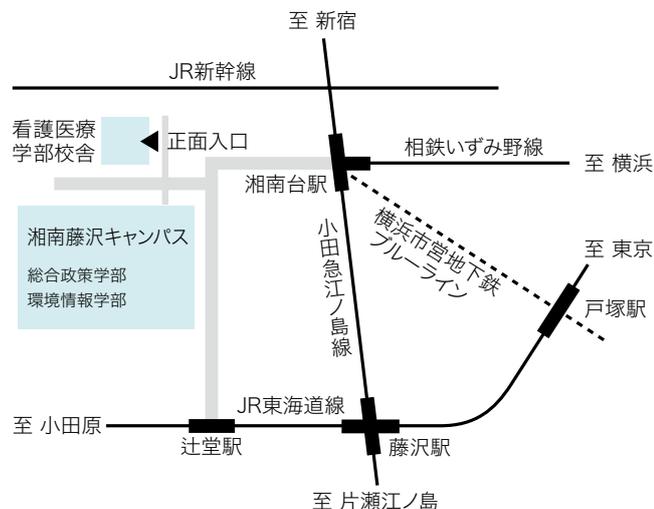
研究科概要

研究科名	大学院健康マネジメント研究科	
専攻名	看護学専攻、公衆衛生・スポーツ健康科学専攻	
授与する学位	看護学専攻	修士(看護学)、博士(看護学)
	公衆衛生・ スポーツ健康科学専攻	修士(公衆衛生学)、博士(公衆衛生学) 修士(医療マネジメント学)、博士(医療マネジメント学) 修士(スポーツマネジメント学)、博士(スポーツマネジメント学)
修業年限	修士課程2年、後期博士課程3年	

Campus & Access

■ 湘南藤沢キャンパス(SFC)

本研究科の主たるキャンパス。看護医療学部校舎を拠点とし、原則として月曜日と火曜日に授業が行われます。キャレルスペース、個人ロッカーの利用が可能です。

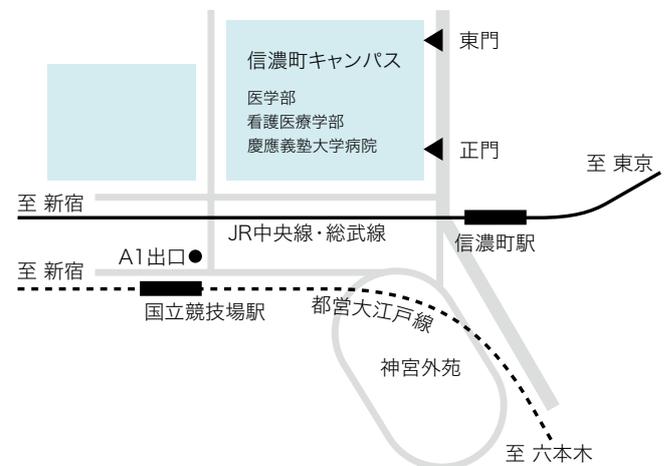


〒252-0883 神奈川県藤沢市遠藤4411
湘南藤沢事務室看護医療学部担当
TEL 0466-49-6200

- 湘南台駅(小田急江ノ島線/相鉄いずみ野線/
横浜市営地下鉄ブルーライン)西口よりバス[慶応大学]行き約15分
横浜～湘南台=約30～40分
- 辻堂駅(JR東海道線)北口よりバス[慶応大学]行き約25分
横浜～辻堂=約25分
- ✈ 羽田空港～上大岡～湘南台=約70～75分

■ 信濃町キャンパス

原則として木曜日と金曜日に孝養舎もしくは予防医学校舎にて授業が行われます。



〒160-8582 東京都新宿区信濃町35
信濃町キャンパス学生課
TEL 03-5363-3662

- 信濃町駅(JR中央線・総武線各駅停車)徒歩1分
新宿～信濃町=約6分
東京～秋葉原～信濃町=約20分
- 国立競技場駅(都営地下鉄大江戸線)徒歩5分
新宿～国立競技場=約4分
- ✈ 羽田空港～浜松町・大門～国立競技場=約45～55分

修士課程

■人材養成の目標

本研究科は、本塾建学の精神に則り、学理および応用を研究教授し、人々の健康に資する保健・医療・福祉の在り方を構想し、科学的方法に基づく高度な実践・マネジメントに求められる深い学識および卓越した能力を培うことを人材の養成および教育研究上の目的としています。

■カリキュラム・ポリシー

●学際的教育の重視

多様な背景・専門の学生が互いの視点と言語を共有し、活発な議論を通じて切磋琢磨できるよう、協働を通じて学ぶ環境を整えるとともに、特定分野・領域の科目だけを履修するのではなく、様々な領域の科目を履修することで視野を広げ、社会の健康水準の向上に貢献できる基礎的能力を培うことを重視します。

●実務と研究の融合の重視

実践を通じて得られたデータを体系化することで理論を構築し、理論的枠組みを用いて現場の課題解決を図り、さらに現場からフィードバックされたデータをもとに既存理論を検証し修正する、実務と研究を融合させた教育を重視します。また、実務と研究が相互に行き来する一連のプロセスを理解するために、インターンシップの機会が用意されています。

●実証的研究方法の重視

保健・医療・福祉のいずれの領域においても、限られた資源を効率的に活用して効果的な成果をあげるためには、個人や集団を問わず、臨床的な合理性と経済的な合理性の両立が求められます。そのため、勤や経験だけに頼るのではなく、エビデンスに基づく合理的意思決定に必要とされる実証的な分析手法の修得を重視しています。

■カリキュラム構成

●導入科目

学際的・先進的領域の本研究科には多様な背景・専門の学生が入学することから、不足する領域についての最低限の知識と基礎的能力を修得し、その後の履修をより効果的にする準備のための科目が用意されています。

●分析手法科目

専門領域を問わず合理的意思決定に求められる、エビデンスの分析および解釈に関する基礎理論と具体的手法を身につけるための科目が用意されています。本研究科は「分析手法科目」の履修を重視し、リテラシー系、生物統計・疫学系、データサイエンス系、質的研究系の科目を基礎から応用まで段階的に修得できるように配置されています。

●専門科目

専門領域における高度な知識と技能を修得するための科目が用意されています。履修制限のある一部の科目を除き、専修やプログラムを問わず、保健・医療・福祉の領域における学際的かつ高度な知識と技能を修得できるよう、学生は自由に科目を履修することができます。

●インターンシップ関連科目

実務教育と体系的講義との相乗効果や、インターンシップに備えての背景の理解や基礎知識の修得、インターンシップでの実務体験を通じて得た知識・知見の客観化・体系化のため、インターンシップ関連科目を設置しています。原則として実務家・医療従事者が講師を務めます。

●特別研究科目

学位論文を作成するための研究指導を受ける科目として設置されています。公衆衛生・スポーツ健康科学専攻においては、修士論文に代わり課題研究論文(インターンシップ)を作成することが可能です。

■ 主な学事日程

1年次	9月中旬	指導教員の決定
2年次	6月初旬	学位論文予定題目申請書の提出
	11月中旬	学位論文発表会
	1月中旬	学位審査論文の提出
	2月初旬	学位論文審査・最終試験(口頭試験)
	3月初旬	審査結果の発表

■ 修了要件

2年以上在籍し(休学期間を除く)、所定の授業科目を30単位以上修得し、修士論文の審査および最終試験に合格すること。

● 看護学専攻

導入科目	2単位以上
分析手法科目	6単位以上
専門科目	10単位以上
特別研究科目	4単位

● 公衆衛生・スポーツ健康科学専攻

導入科目	2単位以上
分析手法科目	6単位以上
専門科目および インターンシップ関連科目	10単位以上 (インターンシップ関連科目2単位以上含む)
特別研究科目	4単位

■ 後期博士課程

■ 人材養成の目標

後期博士課程においては、修士課程で培った能力をさらに伸ばし、直面する高度で複雑な状況に対して、適切に問題を見出し解決に導く分析能力、多様な背景の研究者や実務家などを統合して解決に導くリーダーシップ等をさらに高めるため、一般的な研究指導・論文指導に加え、研究プロジェクトへの参加、新規テーマの提案、研究開発管理の体験など複眼的で学際的なアプローチを通して、実践的で独創的な健康マネジメントの成果が展開できることを目指す教育を行い、より高度な研究能力と学際的視野を有する研究者、教育者、専門家の育成を目指します。

■ 論文中間審査会

毎年度、研究の進捗状況や研究成果を報告し、必要な指導・助言を受けると共に、研究テーマに応じた適切な進行段階にあることの確認・審査を受けなければなりません。

■ 修了要件

後期博士課程に3年以上在学(休学期間を除く)し、所定単位(特論科目4単位、合同演習科目6単位以上の計10単位以上)を修得し、かつ研究上必要な指導を受けたうえで博士論文の審査および最終試験に合格することとなっています。英語のみでの修了も可能です。なお、外国の大学院への留学が許可された場合、留学期間のうち1年間に限り在学年数に算入することが可能です。また、相当する内容の授業科目の単位を修得した場合、その学期の「合同演習」としての単位認定が可能です。

看護学専攻

看護学専攻長からのメッセージ

少子社会から多死社会へと変わりつつある現在、健やかな生の援助はもちろんのこと、各人の多様な価値観を尊重した看取りに至るまで、あらゆる局面での一人ひとりの命に対する質の高い援助が、これまで以上に必要とされています。くわえて、新型コロナウイルスの流行などによる世界的な混乱と不安の高まりの中で、医療や看護が社会に対して果たすべき役割は大きくなるばかりです。高まる社会の期待に圧倒され、ストレスに感じることもあると思います。しかし、そのような時にこそ、職業人としての自分の将来を見つめ直していただきたいと思います。

看護学は古くて新しい学問です。先達が築きあげた知識や技術を正しく位置づけた上で、新たな知識と技術を取り入れた看護を創造し続けることが必要です。本学の健康マネジメント研究科 看護学専攻には、4領域(ライフステージケア領域、クリニカルケア領域、コミュニティケア領域、システムケア領域)に分類された13もの多様な専門分野が揃い、そのうち4分野には専門看護師コースも併設されています。

どの分野にもユニークな学びの機会が用意されていますが、それにくわえて、慶應義塾の理念に基づき、同じ研究科内の公衆衛生・スポーツ健康科学専攻はもとより、義塾内の他研究科との連携が可能です。新たな看護学を創造しようという気概を持った方々と、この学びの場で刺激し合えることを願っております。



健康マネジメント研究科
看護学専攻長

戈木クレイグヒル 滋子

研究科委員(看護学専攻)

氏名	職位	専門
大坂和可子	准教授	がん看護学、成人看護学、緩和ケア、看護情報学
小池 智子	准教授	看護管理・看護政策
妹クレイグヒル 滋子	教授	小児看護学、質的研究法
田口 敦子	教授	公衆衛生看護学・地域看護学
武田 祐子	教授	遺伝看護学、がん看護学、成人看護学
辻 恵子	准教授	母性看護・助産学、遺伝看護学
永田 智子	教授	在宅看護学
野末 聖香	教授	精神看護学、リエゾン精神看護学
深堀 浩樹	教授	老年看護学、家族看護学、看護管理学
福井 里佳	准教授	基礎看護学、看護教育学
福田 紀子	准教授	精神看護学、リエゾン精神看護
藤井千枝子	教授	先端看護学、看護技術、看護情報学、環境生態学
宮川 祥子	准教授	健康情報学、災害情報学
宮脇美保子	教授	基礎看護学、看護倫理、看護哲学
矢ヶ崎 香	教授	がん看護学、成人看護学、緩和ケア

■ディプロマポリシー

学際的で豊かな知識と高い倫理性に裏打ちされ、既存の枠組みにとどまらない構想力や研究・教育能力、複雑かつ先進的な健康課題を包括的に理解するための臨床判断能力、ならびにEvidence-based practiceおよび理論や概念基盤に基づいた最善のアウトカムをもたらすケア実践能力を修得した者に対して学位を授与します。

■修了生の進路

病院をはじめとした施設、地域における看護上級実践者および管理職、大学等教育・研究機関における教育・研究職が主たる進路となります。

専門看護師(Certified Nurse Specialist : CNS)プログラム

[概要]

日本看護系大学協議会による専門看護師教育課程基準を満たす教育課程として組み立てられたプログラムです。原則として、修士論文に代わり課題研究論文(CNS実習)を作成することになります。学生は、実習施設と担当教員の緊密な連携のもと実習指導を受けたうえで、実践的研究課題を取り上げ、講義・演習科目で培われた理論知のうえに立ち、CNS実習における実践知をふまえた総体的表現としての研究に取り組みます。

[対象分野]

老年看護分野、がん看護分野、精神看護分野、遺伝看護分野

[修了要件]

2年以上在籍し(休学期間を除く)、所定の授業科目を46単位以上修得し、修士論文または課題研究論文の審査および最終試験に合格すること。(導入科目2単位、分析手法科目2単位、専門科目38単位、特別研究科目4単位)

海外での研修・留学

[海外研修(メイヨクリニック)]

CNSプログラムの学生を対象に、専門看護実習の一部として、マグネットホスピタルとして名高いメイヨクリニック(米国ミネソタ州ロチェスター)において行われる研修です。人数枠の範囲内でCNSプログラム以外の看護学専攻の学生も応募が可能になる場合があります。

[海外短期留学(ワシントン大学)]

看護学専攻後期博士課程生を対象に、ワシントン大学(米国ワシントン州シアトル)において秋学期から冬学期(10月初旬～3月下旬)の半年間に行われる短期留学プログラムです。同大学博士課程の講義を受けることで修了証が授与されます。

5年一貫プログラムについて

看護医療学部4年次に、健康マネジメント研究科(看護学専攻)修士論文コースの一部の科目を履修することにより、学士(看護学)と修士(看護学)の2つの学位を5年間で取得できるプログラムを実施します。

■ 専門分野の構成

領域	分野	担当
ライフステージケア領域	母性看護分野	辻恵子
	小児看護分野	戈木クレイグヒル滋子
	老年看護分野 ※	深堀浩樹
クリニカルケア領域	基礎看護分野	宮脇美保子、福井里佳
	成人看護分野	矢ヶ崎香、大坂和可子
	精神看護分野 ※	野末聖香、福田紀子
	がん看護分野 ※	矢ヶ崎香
	遺伝看護分野 ※	武田祐子
	先端看護分野	藤井千枝子、宮川祥子
コミュニティケア領域	在宅看護分野	永田智子
	公衆衛生看護分野	田口敦子
システムケア領域	看護管理・政策分野	小池智子
	看護学教育分野	福井里佳

※ CNSプログラム併設

■ 科目一覧(修士課程)

導入科目			
臨床入門	社会保障論	ヘルスケア倫理学	健康マネジメント概論
高齢社会デザイン論	経営戦略論		
分析手法科目			
基礎疫学	サービスデータサイエンス	クオリティマネジメント	ヘルスアウトカム評価論
基礎生物統計学Ⅰ	基礎生物統計学Ⅱ	臨床試験方法論	ヘルス情報管理論
多変量因果解析	応用生物統計学	疫学研究の統計的方法	質的研究法
専門科目			
母性看護学	母性看護学方法論Ⅰ	母性看護学方法論Ⅱ	母性看護学演習Ⅰ
母性看護学演習Ⅱ	小児看護学	小児看護学方法論Ⅰ	小児看護学方法論Ⅱ
小児看護学演習Ⅰ	小児看護学演習Ⅱ	老年看護論	高齢者健康生活評価法
老年期疾患治療論	高齢者・家族援助論	老年サポートシステム・制度論	老年看護実践演習
認知症高齢者看護演習	老年専門看護実習	基礎看護学	基礎看護技術方法論Ⅰ
基礎看護技術方法論Ⅱ	基礎看護学演習Ⅰ	基礎看護学演習Ⅱ	がん病態生理学
がん看護論	がん看護援助論	がん治療看護論	がん遺伝看護論
がん薬物療法看護論	緩和ケア演習	がん専門看護実習	成人看護学
成人看護学方法論Ⅰ	成人看護学方法論Ⅱ	成人看護学演習Ⅰ	成人看護学演習Ⅱ
精神看護論	精神の健康生活評価法	治療的精神看護介入法	リエゾン精神看護論
精神保健医療福祉制度論	精神科治療技法	精神看護介入演習	精神専門看護実習
遺伝看護論	遺伝リスク評価法	臨床遺伝特論	遺伝看護対象論
遺伝医療・社会制度論	遺伝看護援助論	遺伝看護展開論	遺伝専門看護実習
先端看護学概論	先端看護学方法論Ⅰ a,b	先端看護学方法論Ⅱ	先端看護学演習Ⅰ a,b
先端看護学演習Ⅱ	在宅看護論	在宅看護方法論Ⅰ	在宅看護方法論Ⅱ
在宅看護学演習Ⅰ	在宅看護学演習Ⅱ	公衆衛生看護学	公衆衛生看護活動方法論Ⅰ
公衆衛生看護活動方法論Ⅱ	公衆衛生看護活動計画・評価論Ⅰ	公衆衛生看護活動計画・評価論Ⅱ	看護管理・政策学
看護管理・政策学方法論Ⅰ	看護管理・政策学方法論Ⅱ	看護管理・政策学演習Ⅰ	看護管理・政策学演習Ⅱ
看護学教育論	看護学教育方法Ⅰ	看護学教育方法Ⅱ	看護学教育演習Ⅰ
看護学教育演習Ⅱ	看護理論	看護教育論	コンサルテーション論
看護研究	看護情報学	看護倫理	看護政策論
看護管理論	フィジカルアセスメント	臨床病態学	臨床薬理学
特別研究科目			
特別研究			

ディスカッションで学びを広げる

健康マネジメント研究科
修士課程2年(小児看護分野)

小沢 浩美

大学院での授業は、先生や多くの院生とディスカッションを行うゼミ形式のものがほとんどです。院生の中には、自分より多くの知識を持った後期博士課程の院生や他専攻、他分野の人など、医療関係者に限らず様々なバックグラウンドを持つ人がいます。ディスカッションでは、自分の考えを表現する力を付けることも重要ですが、私がおもしろいと感じることは、他者の考えを聞くことで自分の学びを広げられることです。私は、看護師として臨床での実務を経験してから大学院に進学しましたが、バックグラウンドの異なる人からの意見は、自分にはまだ「知らないこと」がたくさんあるということを教えてくれます。その刺激が自分の視野と学びを広げ、研究や実践のアイデアにつながっていくように思います。

このような他者との学び合いの中で研究を行い、より良い実践につながるエビデンスを見出し、未来へつなげていきたいと考えています。



看護管理・政策の実践力と研究力を養う

健康マネジメント研究科
看護学専攻
准教授 小池 智子

システムケア領域・看護管理分野では、看護管理と看護政策の事例を用いたケースメソッド教育を組み入れ、マネジメントや政策決定の諸理論の理解と応用力、構想力・分析力・意志決定力・統合力の高い人材の養成に取り組んでいます。特に政策事例では、エビデンスを重視した政策立案(Evidence Based Policy Making)に焦点を当て、課題認識の適正性、統計・データ、分析結果等の精度や活用方法の適切性や、ロジックモデルの妥当性の検証を行ない、この検証プロセスを通して、政策提言に必要な研究と活動について学んでいきます。

2019年入学の学生は、行動経済学の理論を活用し、時間外労働の削減などの医療勤務環境改善に役立つ「ナッジ(Nudge)」開発の研究に取り組んでいます。また、中堅看護師の組織コミットメントを高める看護管理者のリーダーシップスタイルの検討や、地域住民の孤独・孤立を予防する「社会的処方(Social Prescribing)」のシステムに関する研究などに従事しています。

写真：医療介護勤務環境改善ナッジ研究会
第1回研究大会(2019年)



公衆衛生・スポーツ健康科学専攻

公衆衛生・スポーツ健康科学専攻長からのメッセージ

公衆衛生とは、健康を脅かす種々の要因に対処するためのサイエンスと社会レベルでの実践であり、具体的には衛生環境の整備、疾病予防、寿命延伸、身体的・精神的健康増進、生活の質(QOL)の向上などが目標となります。先人の努力により既に多くの目標は達成され、その結果、わが国は世界有数の長寿国となりました。しかし、残念ながら我々の目の前に広がる社会は桃源郷にあらず、認知症、介護、少子高齢化、人口減少など、新たな社会問題を抱え、その解決が急務となっています。また、最近では新型コロナウイルスという新興感染症の脅威が世界を震撼させており、公衆衛生学の重要性が再認識されています。今、我々が直面している危機を乗り越え、健康、医療、介護など様々な面でサステナブルな社会を実現するためには、その時代ごとに変化する問題を解決するのに必要な多角的な知識と実践力が要求されます。

本専攻では3つの学位プログラムを用意し、公衆衛生のみならず、医療施策とそのマネジメント、スポーツ医学と健康科学領域への応用、そして、スポーツを実社会に落とし込むためのマネジメントなどについて学際的知識を得るとともに、学びの過程で生じた疑問を研究活動に結びつけるサポートをします。

人々の健康への関心は高まる一方で、世の中には健康に関連した玉石混淆の情報が溢れています。俗説・風評を見分けることが出来るリテラシーを身に付け、真の健康科学を社会に還元するための実践者として活躍する人材を輩出することが我々の願いです。志のある皆さんの入学をお待ちしております。



健康マネジメント研究科
公衆衛生・スポーツ健康科学専攻長

石田 浩之

研究科委員(公衆衛生・スポーツ健康科学専攻)

氏名	職位	担当学位プログラム*			専門
		公	医	ス	
秋山 美紀	教授	○			ヘルスコミュニケーション、コミュニティヘルス
石田 浩之	教授			○	スポーツ医学、運動生理学、老年学
梅津 光弘	准教授		○		経営倫理、応用倫理学
大澤 祐介	准教授	○		○	スポーツ科学、老年疫学、運動疫学
大谷 俊郎	教授			○	スポーツ医学、バイオメカニクス
岡村 智教	教授	○			循環器疾患予防、健康教育、地域保健
小熊 祐子	准教授	○		○	スポーツ医学、運動疫学、健康行動科学
勝川 史憲	教授			○	内分泌代謝学、スポーツ医学
河井 啓希	教授		○		医療経済
権丈 善一	教授		○		公共政策、社会保障
後藤 励	准教授	○			医療経済学、医療技術評価
佐藤 和毅	教授	○		○	スポーツ医学・整形外科(とくに手・肘の外科)および臨床疫学
佐藤 泰憲	准教授	○			生物統計学、バイオインフォマティクス、臨床試験学
佐野 毅彦	准教授			○	スポーツビジネス
杉山 大典	教授	○			疫学、臨床検査医学、生物統計学
武林 亨	教授	○			疫学・予防医学、産業保健・環境保健
橋本 健史	教授			○	スポーツ医学、バイオメカニクス
堀田 聡子	教授	○	○		ケア人材政策、人的資源管理、地域包括ケア
前田 正一	教授	○	○		医事法、医療倫理、医療安全管理
宮田 裕章	教授	○	○		ヘルステータサイエンス、医療の質、医療政策
山内 慶太	教授	○	○		医療マネジメント、精神保健
渡辺美智子	教授		○		統計科学、多変量解析

※公：公衆衛生学、医：医療マネジメント学、ス：スポーツマネジメント学

■ディプロマポリシー

●公衆衛生学

すべての人々の健康と生活の質の維持・向上を目指し、地域から地球規模にまで広がる健康課題の解決を図ることのできる専門的知識・技能と、課題解決に導くコミュニケーションやマネジメントの能力を修得し、多様性への寛容や職業倫理観といった資質を備えていると認められる者に対して学位を授与します。

●医療マネジメント学

保健・医療・福祉機関並びに関連ビジネスにおいて、これまで以上に質の高いサービスを効率的かつ各個人のニーズを踏まえてきめ細やかに提供するために必要なマネジメントを、研究あるいは企画・実践できる能力を修得した者に対して学位を授与します。

●スポーツマネジメント学

個人や集団の健康の維持・増進に資する知識とビジネスマネジメント技能を統合することによって、健康水準の高い社会のあり方を企画・実践でき、スポーツ文化の振興とスポーツ産業の発展に貢献できる能力を修得した者に対して学位を授与します。

早期修了制度

修士(公衆衛生学、医療マネジメント学)に限り、保健・医療・福祉の分野で一定の専門性と実務経験を有する者を対象に、早期修了制度を用いて在学1年での学位取得が可能です。なお、修士(公衆衛生学)関連の科目は、信濃町キャンパスで開講されます。

MBA-MPHプログラム

本研究科と本塾経営管理研究科との間で、公衆衛生とビジネスの双方に通じた人材を育成することを目的としてつくられたプログラムです。十分な実務経験のある者を対象とし、経営管理研究科在籍時に本研究科の科目を上限10単位まで履修できる制度等の活用により、計3年間で修士(公衆衛生学)と修士(経営学)が授与されます。いずれの研究科からも開始できます。

ケースとデータに基づく病院経営人材育成プログラム

本プログラムは、ケース討議を通じ、厳しさが増す経営環境において、創発性に富みかつ課題発見と解決力・実行力のある実践的病院経営人材の養成を目的としています。履修者(5科目計10単位)にはサーティフィケート(修了証)が授与されます。すべての学位プログラムで履修可能です。

医療経済評価人材育成プログラム(HTAプログラム)

本プログラムは、疫学・統計学関連および医療経済関連の授業を通じ、医療技術や医療制度を分析する人材育成を目的としています。履修者(11科目計20単位)にはサーティフィケート(修了証)が授与されます。すべての学位プログラムで履修可能です。

■ 修了生の進路

病院、介護施設、製薬会社、医療機器製造・流通会社、医療経営コンサルティング会社といった保健・医療・福祉関連団体や、大学、研究機関、シンクタンクといった研究教育機関、国、地方公共団体あるいは国際機関といった公的組織、スポーツ用品製造・流通会社、スポーツ団体（統括団体、クラブ等）、フィットネスサービス会社等のスポーツ関連団体に加え、広告会社、金融機関、保険会社、商社、経営コンサルティング会社、人材サービス会社、ITサービス会社等、卒業後の進路は多岐にわたります。

Column

様々な実践的授業と研究を通して、 問題意識と向き合った2年間

健康マネジメント研究科
2020年3月修了(公衆衛生学)

池上 洋未

保健師として公衆衛生行政に携わる中で、健康の社会的決定要因をはじめ、人々を取り巻く環境全体を視野に入れた問題解決能力を身に付けたいと考え、健康マネジメント研究科に進学しました。

授業では様々な背景を持つ学生同士、交流を深めながら沢山の知見を得ることができました。また、政策やビジネスの実践家、当事者とその支援者等、多様な講師による授業では、自身の専門性を客観視し、今後の活動を熟考する良い機会を得られました。さらに、いずれの授業にも常に研究テーマを念頭に臨むことで、研究で得た知見をどのように事業や政策に反映するか具体的にイメージすることができました。

今後は共に学んだ仲間と協力して、人々の健康に貢献するための一歩を踏み出したいです。



パーソナルケアシステム論で当事者の方を囲んで

Column

立場の垣根を越えた学びが、 実践のヒントになる

健康マネジメント研究科
2020年3月修了(公衆衛生学)

藤井 さやか

私は自身のがん体験から、若年がん経験者が直面する課題を解決したいと考え、進学を決めました。非医療系学部出身で社会人経験もない私が問題意識を研究に結び付けられたのは、多様な人々との協働を可能にする健康マネジメント研究科の環境のおかげです。研究科内では、年齢や専門、国籍、医療者と患者といった立場の違いは関係ありません。フラットな議論により、見える世界が大きく変化しました。また、他研究科や学部生と交流できるのも慶應ならではの魅力だと考えています。

修了後はメディア業界に進み、情報を発信する立場となります。形としては一区切りですが、研究を実践に生かすという意味では今がまさにスタート地点です。健康マネジメント研究科での学びや出会いを原点として、誰一人取り残されることのない社会を作っていきます。



SFC学部生と、山形県鶴岡市の小学生へのがん教育に挑戦

モデルカリキュラム

健康スポーツ医科学領域の専門家を目指すコース	スポーツマネジメント学	石田浩之、大澤祐介、大谷俊郎、小熊祐子、勝川史憲、佐藤和毅、橋本健史
スポーツビジネス領域の経営管理の専門家を目指すコース	スポーツマネジメント学	佐野毅彦
疫学・予防医学、生物統計・データサイエンスの専門家を目指すコース	医療マネジメント学	宮田裕章、渡辺美智子
	公衆衛生学	岡村智教、大澤祐介、佐藤和毅、佐藤泰憲、杉山大典、武林亨、宮田裕章
医療・介護サービス等のデータを活用したヘルスサービスの専門家を目指すコース	医療マネジメント学	前田正一、宮田裕章、山内慶太、渡辺美智子
	公衆衛生学	杉山大典、前田正一、宮田裕章、山内慶太、渡辺美智子
ポピュレーションヘルス(地域、産業、精神保健等)、グローバルヘルスの専門家を目指すコース	医療マネジメント学	堀田聡子、宮田裕章
	公衆衛生学	秋山美紀、岡村智教、大澤祐介、小熊祐子、杉山大典、武林亨、堀田聡子、宮田裕章
ヘルスコミュニケーション、健康行動(身体活動、栄養)の専門家を目指すコース	公衆衛生学	秋山美紀、大澤祐介、岡村智教、小熊祐子
	スポーツマネジメント学	大澤祐介、小熊祐子、勝川史憲
医療安全管理、臨床倫理の専門家を目指すコース	医療マネジメント学	前田正一
	公衆衛生学	前田正一
ヘルスケア領域の政策やマネジメントの専門家を目指すコース[病院経営コースを含む]	医療マネジメント学	堀田聡子、宮田裕章、山内慶太
	公衆衛生学	秋山美紀、後藤励、武林亨、堀田聡子、宮田裕章、山内慶太
ヘルスケア領域の組織の経営管理の専門家を目指すコース[病院経営コースを含む]	医療マネジメント学	堀田聡子、前田正一、宮田裕章、山内慶太、渡辺美智子
医療経済評価・医療技術評価(HTA) 専門家コース	公衆衛生学(医療マネジメント学、看護学からも可)	後藤励、武林亨、杉山大典、佐藤泰憲

科目一覧(修士課程)

導入科目			
臨床入門	社会保障論	ヘルスケア倫理学	健康マネジメント概論
高齢社会デザイン論	経営戦略論		
分析手法科目			
基礎疫学	サービスデータサイエンス	クオリティマネジメント	ヘルスアウトカム評価論
基礎生物統計学Ⅰ	基礎生物統計学Ⅱ	臨床試験方法論	ヘルス情報管理論
多変量因果解析	応用生物統計学	疫学研究の統計的方法	質的研究法
専門科目			
医療政策・管理学	ヘルスサービス財務管理論	ヘルスサービス経営倫理学	医事法学
リスクマネジメント論	医療経営戦略論	パーソナルケアシステム論	医療経済学Ⅰ
医療経済学Ⅱ	ヘルスビジネス知的財産論	医薬経済学	老年医学・高齢者スポーツ医学
ヘルスプロモーション	運動生理学	運動疫学	バイオメカニクス・動作解析
健康スポーツ栄養科学	健康スポーツ経営論	健康スポーツマーケティング論	環境・産業保健学
公衆衛生マネジメント	感染症疫学・サーベイランス	生活習慣病疫学	地域保健学
国際保健学	精神保健学	ヘルスコミュニケーション	健康行動科学
インターンシップ関連科目			
病院経営論	居宅サービス経営論	民間保険経営論	製薬産業論
医療機能評価論	健康都市デザイン論	運動・体力評価法	健康スポーツプロモーション
健康スポーツ地域デザイン論	健康スポーツ産業論	公衆衛生実践	健康ビジネス開発論
特別研究科目			
特別研究			
研究科の定める科目			
ヘルスケア情報プラットフォーム	ヘルスケア領域のグローバルアントレプレナーシップ基礎講座		データ対話型病院経営論Ⅰ
データ対話型病院経営論Ⅱ	病院経営のためのケース教育習得法	病院経営Ⅰ	病院経営Ⅱ
ヘルステクノロジーアセスメント	レギュラトリーサイエンス	薬剤疫学・データサイエンス	医療政策提言・アドボカシー
薬局経営管理論	労務管理論	医療制度とレギュラトリーサイエンス	QOLと費用の評価
医療経済評価特論	費用対効果評価演習	経済評価モデル分析演習	

健康と統計学

健康マネジメント研究科
公衆衛生・スポーツ健康科学専攻

教授 杉山 大典 専任講師(有期・医学部) 竹内 文乃

相関係数の理論や線形回帰モデルの発展に中心的役割を果たしたことで知られるイギリスの統計学者Karl Pearson (カール ピアソン, 1857-1936)は、その著書で「統計学は科学の文法である」と記しています。また最近ではGoogleのChief Economist, Hal Varian氏はNew York Times誌で「今後10年でもっともセクシーな仕事は統計学者」と述べています。

健康を扱うすべての学問領域では、ヒトの集団を対象として健康や疾病に関する因果関係を定量的に評価することがきわめて重要です。

本研究科では、公衆衛生学位プログラムの必修科目として世界共通のエントリーレベルの統計科目としての位置づけとして開講している『基礎生物統計学Ⅰ・Ⅱ』(公衆衛生学位プログラム必修科目)を始め、統計ソフトを用いながらより高度な統計手法を学ぶ『応用生物統計学』(選択科目)、観察的疫学研究に興味のある方を主な対象として因果関係論などのトピックについて集中講義・演習を行う『疫学研究の統計的方法』(選択科目)などを用意しています。

導入科目的位置づけとなる『基礎生物統計学Ⅰ・Ⅱ』については、公衆衛生・スポーツ健康科学専攻だけでなく看護学専攻の方にも受講していただいております。研究を始めるにあたっての土台として役立ててもらっています。また、数学や統計学のバックグラウンドが履修者によって様々であることを鑑み、『基礎生物統計学Ⅰ・Ⅱ』では統計ソフトをあえて用いず、基本的な理解を深めるために手計算による演習などを交えながら進めています。

写真は2019年度『疫学研究の統計的方法』の講義風景です。履修者もPCを開いての受講です。



臨床試験の虎の穴

健康マネジメント研究科
公衆衛生・スポーツ健康科学専攻

准教授 佐藤 泰憲

臨床研究に必要なものは熱意であり、熱意にかけては最高でなければなりません。それに加え、科学的・倫理的に妥当なプロトコル、一般のひとにもわかりやすい同意説明文書、データの信頼性を確保する手段、臨床研究を支援する体制などが必要です。「臨床試験方法論」では、科学的に妥当で効率のよい臨床研究デザインはどのようなものであり、プロトコルをどのように作成するか、調査表をどのように設計するかなどの研究計画の問題、モニタリング・データマネジメントをどのようにおこなうかを学生と議論しながら講義を進めています。また、グループワークとして、クリニカル・クエスチョンをリサーチ・クエスチョンに構造化し、質の高い臨床研究のプロトコルを作成し、学生主体の模擬倫理審査委員会で作成したプロトコルを審査する実践的で臨場感のある実習を実施しております。臨床研究をテーマに学生とともに創る講義を心掛けております。

写真は、模擬倫理委員会の様子で、右側がプロトコル作成チーム(申請者)、左側が倫理審査委員にわかれて白熱した議論を行っています。



入学試験

※出願資格等、試験の詳細については必ず当該年度の募集要項をご確認ください。募集要項は研究科ウェブサイトで公開しています。

■アドミッション・ポリシー

本研究科は、学際的・先進的分野の研究科として教育・研究水準の向上と広がりを目指し、医療系・非医療系の出身学部を問わず多様な背景の学生を幅広く受け入れるとともに、学部の新規卒業者だけでなく実務経験者を含む既卒者も対象としています。そのため、入学者選抜については、入学希望者の本研究科における学習研究への意欲や研究活動の遂行に求められる課題設定能力、論理的思考力、分析力、説明能力等を多面的に評価し判定しています。

■修士課程

日程	Ⅰ期	出願期間	2020年6月4日(木)～6月10日(水)
		試験日	2020年7月4日(土)
		合格発表日	2020年7月9日(木)
		入学手続期間	2020年12月1日(火)～12月7日(月)
	Ⅱ期	出願期間	2020年10月22日(木)～10月28日(水)
		試験日	2020年11月21日(土)
		合格発表日	2020年11月26日(木)
		入学手続期間	2020年12月1日(火)～12月7日(月)
	Ⅲ期	出願期間	2021年1月7日(木)～1月12日(火)
		試験日	2021年1月23日(土)
		合格発表日	2021年1月28日(木)
		入学手続期間	2021年2月2日(火)～2月8日(月)
募集人員	看護学専攻10人、公衆衛生・スポーツ健康科学専攻30人 (注)各期に募集人員枠は設けていませんが、Ⅲ期は若干名となります。		
試験科目	小論文試験、面接試験		
試験会場	湘南藤沢キャンパス看護医療学部校舎		

■後期博士課程

日程	前期	出願期間	2020年10月22日(木)～10月28日(水)
		試験日	2020年11月21日(土)
		合格発表日	2020年11月26日(木)
		入学手続期間	2020年12月1日(火)～12月7日(月)
	後期	出願期間	2021年1月7日(木)～1月12日(火)
		試験日	2021年1月23日(土)
		合格発表日	2021年1月28日(木)
		入学手続期間	2021年2月2日(火)～2月8日(月)
募集人員	看護学専攻5人、公衆衛生・スポーツ健康科学専攻5人 (注)各期に募集人員枠は設けていません。		
試験科目	面接試験		
試験会場	湘南藤沢キャンパス看護医療学部校舎		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・出願時に英語能力試験結果(TOEFL iBT、IELTS Academic、TOEIC Listening & Reading Testのいずれか一つ)を提出してください。 ・出願前に希望する指導教員に連絡し、研究計画等について説明・相談を行ってください。出願書類には説明・相談を行った日の記載欄があります。 		

Keio University



慶應義塾大学
大学院健康マネジメント研究科ウェブサイト
<https://gshm.sfc.keio.ac.jp>